

佐賀県農業共済組合



1 佐賀県の概要

佐賀県は九州の北西部に位置し、北は玄界灘、南は有明海に面しています。県土の中央部には広大な佐賀平野が広がり、平野部と丘陵地帯からなる比較的なだらかな地形が特徴です。

気候は比較的温暖で、四季を通じて豊かな自然環境に恵まれています。南部の有明海は日本でも有数の干満差を持つ海として知られ、広大な干潟が広がる独特の景観が形成されています。

県内では地域に根付いた伝統文化や祭りも多く受け継がれています。豪華な曳山が町を巡行する唐津くんちは、ユネスコ無形文化遺産にも登録されており、佐賀を代表する祭りとして全国的に知られています。また、毎年多くの来場者でにぎわう有田陶器市は、日本有数の陶磁器のイベントとして全国から多くの人が訪れます。

さらに秋には国内最大級の熱気球大会である佐賀インターナショナルバルーンフェスタが開催され、世界各国から多くの選手や観光客が訪れるなど、佐賀県は自然・歴史・文化が調和した魅力あふれる地域となっています。



佐賀県農業共済組合 管内図

© 佐賀県文化観光連盟



唐津くんち

© 佐賀県文化観光連盟



佐賀インターナショナルバルーンフェスタ

2 佐賀県の農業

管内では二毛作が主流であることから、耕地面積に対する作付面積の割合が全国的にも高く、農業が地域経済の中心を成しています。

主な農産物のひとつである水稻では、「ヒノヒカリ」「夢しずく」「コシヒカリ」などの良食味品種に加え、高温耐性と品質の高さに定評のある「さがびより」の作付けが年々拡大しており、日本穀物検定協会の「米の食味ランキ

ング」において、令和7年産「さがびより」が“特A”評価を獲得し、16年連続の最高評価となりました。さらに新品種である「ひなたまる」の作付けも本格化し、今後の生産拡大が期待されています。

佐賀県では、令和7年産水稻の作付面積は約2万3,700ヘクタール、収穫量は約12万2,100トン、10アール当たりの収量は515キ

プログラムと、安定した生産が続いています。

冬作では小麦や大麦の栽培が盛んで、特にビールや焼酎の原料となる二条大麦は全国有数の収穫量を誇ります。このような輪作体系は地域農業の安定と持続性に大きく寄与しています。

野菜ではタマネギが全国第2位の収穫量を誇るほか、アスパラガス、レンコン、イチゴ(「さがほのか」「いちごさん」)の生産も盛んです。

果樹では、みかんやナシのほか温室栽培による「ハウスみかん」が令和6年産で全国第1位の出荷量を記録しており、長い出荷期間と高い品質が市場で高く評価されています。



佐賀平野の風景

畜産では鶏、豚、肉牛の飼育が行われており、特に「佐賀牛」は全国ブランドとして高い評価を得ています。厳格な基準で管理された佐賀牛は国内外の品評会でも高く評価され、県を代表する畜産品となっています。

このように佐賀県では豊かな自然と調和した環境の中で、多様で質の高い農業が営まれています。

3 佐賀県農業共済組合の概要

- 本所所在地：佐賀県佐賀市神野西4丁目4番14号
- 本所電話番号：0952-31-4171
- 理事：17名
- 監事：3名
- 職員数：118名(うち獣医師14名)
※契約職員を含む
(令和8年4月1日現在)

4 佐賀県農業共済組合(NOSAI佐賀)の活動

NOSAI佐賀は、令和2年4月1日に県内の7組合と佐賀県農業共済組合連合会が合併し、特定組合として新たにスタートしました。

NOSAI佐賀では、農業共済制度および収入保険制度を通じて、自然災害や価格低下など様々なリスクから農業経営を守る取組を行っています。

近年は台風や豪雨などの自然災害が頻発しており、農業経営を取り巻く環境は厳しさを増しています。こうした状況の中で、農業共済制度は自然災害による損失を補償する制度と

して農業経営の安定に大きな役割を果たしています。

また、収入保険制度は自然災害だけでなく価格低下など様々なリスクに対応できる制度として、多くの農業者に活用されています。

NOSAI佐賀では、これらの制度を地域の農業者に広く周知し、安心して農業経営を継続できるよう制度の普及と加入推進に取り組んでいます。今後も関係機関と連携しながら、地域農業を支えるセーフティネットとして農業者の経営安定と地域農業の発展に寄与していきます。